



©Jean Baptiste Millot

彼のようにピアノシモを柔らかく、かつクリアに弾けるピアニストは世界に数人しか居ない。一度に3声、4声もの旋律をそれぞれ絶妙に異なる音質で歌い上げることが出来る、正に稀有なピアニストである。

(THE STAR)

アドレナリン全開、恐ろしい程の超絶技巧の嵐を、汗一つかかず颯爽と弾ききった。

その軽妙なタッチは正に武器。

(シンシナティ・エンクワイヤラー紙)

セドリック・ティベルギアン ピアノ Cédric Tiberghien, piano

輝かしい国際的なキャリアは五大洲全土にわたり、カーネギー・ホール、ケネディ・センター、ロイヤル・アルバート・ホール、クイーン・エリザベス・ホール、バービカン・センター、ザルツブルクのモーツァルテウム等、世界で最も名声の高いホールに登場している。

最新の活動は、ロンドン交響楽団へのデビューや、エンリケ・マツォーラ指揮パリ管弦楽団とベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲演奏会を完結させる。リサイタルでは、ウィーン・コンツェルトハウス、アムステルダム・コンサートヘボウのほか、ウィグモア・ホールの名誉あるマスター・シリーズへの出演やシャンゼンリゼ劇場に再び登場する。最新のCDは、ハイペリオンより2014年『シマノフスキ:ピアノ作品集』をリリースし、「その上品な妙技は巨匠の域である」(グラモフォン誌)など各誌で絶賛された。その他、「デュボワ:ロマン派ピアノ協奏曲シリーズ」(アンドルー・マンゼ/BBCスコティッシュ交響楽団)、「フランク:交響的変奏曲、交響詩《鬼神》」(フランソワ・グザヴィエ・ロト/リエージュ・フィル)、「ブラームス:ピアノ協奏曲第1番」(ピエロフラヴェック/BBC交響楽団)、6枚のソロ作品集がハルモニア・ムンディからリリースされている。

パリ国立高等音楽院でフレデリック・アゲシーとジェラルド・フレミーに師事し、1992年、わずか17歳でプルミエ・プリを受賞。その後、複数の国際コンクール(ブレーメン、ダブリン、テル・アヴィヴ、ジュ

ネーブ、ミラノ)で入賞し、1998年ロン=ティボー国際コンクールでの優勝では、合わせて5つの特別賞も受賞した。

60曲を超える協奏曲のレパートリーを持ち、一流オーケストラと共演を重ねている。これまでに、ボストン交響楽団、クリーヴランド管弦楽団、ワシントン・ナショナル交響楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、ブダペスト祝祭管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、シュトゥットガルト州立歌劇場管弦楽団、BBC交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、パリ管弦楽団、フランス国立管弦楽団、シドニー交響楽団、NHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、札幌交響楽団等と共演。指揮者では、クリストフ・エッセンバッハ、イルジー・ビエロフラヴェック、ライオネル・ブランギエ、ロビン・ティッチアーティ、ヤニック・ネゼ=セガン、シモーネ・ヤング、チョン・ミョンフン、クルト・マズア、イヴァン・フィッシャー、ジェフリー・テイト、ルイ・ラングレー、リュドヴィク・モルロー、ステファン・ドヌーヴ、エンリケ・マツォーラ等と共演している。

室内楽にも熱心で、特に、アリーナ・イブラギモヴァ (vn)、アントワン・タメスティ (va)、ピーター・ウィスperlウェイ (vc) と定期的にパートナーを組んでいる。

宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

宗次フレンズ 会員募集

会員登録していただいたフレンズ会員様は
一般発売より先行してチケットをご購入頂けます

会員登録・年会費 無料

詳しくは、宗次ホール (052-265-1715) までお問合せ下さい。

■交通アクセス
地下鉄栄駅⑫ 番出口より東へ徒歩4分



くらしの中にクラシック

宗次ホール
Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
E-mail info@munetsuguhall.com
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター
営業時間:10:00~18:00
年中無休(年末年始、施設メンテナンス日を除く)